



生徒指導部から（２・３年生へ）

== 未来の花を咲かせるために ==

2026年10月1日

コンピテンシーとは「高い業績・成果につながる行動特性」のことで、学歴や知能レベルが同等の外交官に業績の差が出るのはなぜかを研究し、発表された考え方です。

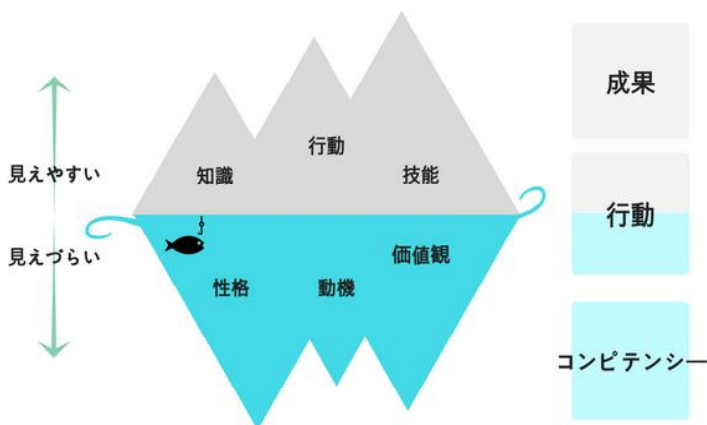
例えば、ある特定の業務（高校生であれば、勉強や部活動）で、高い業績や成果を出している人がいるとします。

その高い業績や成果を出している人には、何か業績や成果を出す理由があるはずで、能力的には大差がないのに、成果に差が出る理由が行動特性であり、コンピテンシーです。

その人の習慣や性格、競技や勉強への動機付けなど行動特性は表面的には理解しづらく見えにくいものです。

「なぜあの人は、いつも高い成果をあげるのか？」と思うような場合には、行動

特性が見えていないといえます。高い学習成績を収める人、試合で勝利をもたらすプレーができる人には、必ず理由があるものです。成績上位のクラスメイトの学習や資格試験に対する姿勢、一流の競技者の練習に対する積極性や競技以外での姿勢など「見えづらい」部分をしっかり見て、その行動特性をお手本として、自分を高めたいものです。



成功者たちの発想

民間警備会社「セコム(株)」社長

「一寸先は光」というのが口癖。

「今日はここまでだったけれど、明日はどんないいことが待っているのだろう」とどきどきするような気持ちでベッドに入る。創業何年かで社員が500人になった頃、「このまま発展したら社員が、10万人を超えてしまう」と、すぐに機械警備を発案、新たな事業部門として立ち上げて、大成功を収めたぐらいである。

宅配ピザ「ピザーラ」のフォーシーズ(株)社長

実業家の御曹司として生まれたが、高校生の時、父親が病に倒れ、生活は一変、収入もなくなった。アルバイトを重ね、若くしてクラブハウスの経営に乗り出した矢先、火事を出し、大やけどを負い、一年をリハビリに費やした。当然、大赤字も背負った。そのときの「ラッキーだ、人間が一回失敗して、そこからまた立ち上がるところを体験できる」というプラス思考には驚かされる。

旅行代理店「(株)H・I・S(旅行販売実績国内3位)」創始者

「どんな苦しいことでも、一晩寝れば忘れるようにしています」と。どうにもならないことにくよくよ悩んでいてもムダ、「起きればきっと何かが変わっている」と信じて寝てしまいうらしい。口癖は「一寸先は闇ではなく、光」。闇と見える暗がりも、落ち着いて目を凝らせば、やがて動くものの存在が見えてくる。そこを逃さず飛びつけば、チャンスは必ずものにできる。ただし、かすかに動くものの存在に気づくには、こちらがどっしりと落ち着いていることが絶対条件である。

人生、誰しも順風満帆ではありません。

3人に共通しているのは、あくまで楽観的で、

決して将来を悲観して投げやりにならなかったこと。

よく『人事を尽くして天命を待つ』と言われますが、

まさにそのとおりの生き方をされていることです。

自分にできるベストを尽くしたら、腹を据えて、じっと待つ。

最も良くないのは、『人事も尽くさず人をうらやんでばかりいる』ことでしょうか。

どこか思い当たる節はありませんか。

本当に手に入れたければ、手に入れるまで何事にもくじけず努力し続けるはずで、

それは、勉強も、部活動も、自分の進路でも同じことでは・・・

